

通 教 月 報

診 療 情 報 管 理 研 究

平成23年3月号

編 集
発 行 人

武田 隆久

〒102-8414 東京都千代田区一番町13-3

社団法人 日本病院会 通信教育課

TEL 03-5215-6647 (受講生専用)

FAX 03-5215-6648 (受講生専用)

URL <http://www.jha-e.com/>

受付時間

9:00~17:00

(ただし、土・日・祝祭日、年末年始は除く)

発行日

毎月1日

定 価 1部 150円 1カ年1,600円(送料共)

郵便振替 00190-5-396045

名 義 社団法人 日本病院会 通信教育部

医療情報学の必要性

笹川 紀夫

広島国際大学 医療福祉学部 医療経営学科 准教授
岡山会場 専門課程(医療情報学) 講師

岡山での「医療情報学」のスクーリングを担当させていただいているが、毎回受講生の熱心な態度には感銘を受けると同時に大学では90分15回で講義する内容を3時間という制約された時間内でポイントが伝えられているか悩むところである。

今から20年以上前に勤務していた医学部で、附属病院でのがん患者の医療評価を行ったことがある。がんの種類を特定し、期間を限定したにも関わらず、膨大な紙カルテの量に呆然とし、またカルテの中を開いて読めない字、略語、様々な形態の情報に悪戦苦闘しながらデータベース化した覚えがある。

近年はIT技術の急速な発達により、病院においても電子カルテに代表されるような診療情報の電子化が進み、紙カルテから解放され、誰でも読める文字となり、様々な形態の情報が一元管理でき、その結果、情報の検索や加工が容易となって、様々な分野での利用が可能となってきた。それに伴い診療情報管理士の役割は、ものの管理から情報の管理へと変化が求められている。

しかし、IT化は情報管理の利便性を格段に向上させたが、同時に情報のセキュリティという新たな危険性をも伴うことになった。診療情報はもっともセキュリティの高い情報の一つであり、情報システム外部及び内部からの不正アクセスや不正侵入といった脅威からの対策を十分にする必要がある。そのためにファイアウォールの設置や厳格なユーザー管理、情報の暗号化等の様々な対策がなされているが、なによりも必要なのが大切な情報を扱っているという医療従事者としての個々の高い倫理観である。病院情報システムにおいて高いセキュリティ対策を施しても、その情報を自宅等に持ち帰り、そこから情報が流出するといったことがあっては意味がない。

診療情報管理士が扱う内容は、医療における唯一無二の公式記録であり、高いセキュリティを持つ情報であることを今一度認識していただいて、医療情報学を学ぶ必要性や重要性を考えてもらえたら幸いである。